

能代宇宙イベント・宇宙甲子園

第1回ロケット甲子園結果報告

日本モデルロケット協会作成

日時 2009年8月21日(金) 午前10時から午後4:00

天候 曇り 風速 4~5.5m

発射台 共通 発射角度垂直、 点火 12 ボルト バッテリー式

打ち上げ順番 時間内であれば気象条件を判断して自由、ただし打ち上げ30分前に申告

記録測定者 日本モデルロケット協会 山田 誠 J00001(第1級従事者)

日本モデルロケット協会 水間 仁 IT0078(第2級従事者)

参加チーム 立命館慶祥高等学校
岩手高等学校自然科学部
群馬県立桐生高等学校 第1チーム
第2チーム
佐賀県立武雄高等学校

順位 優勝 群馬県立桐生高等学校 第1チーム
準優勝 群馬県立桐生高等学校 第2チーム
第3位 佐賀県立武雄高等学校
第4位 立命館慶祥高等学校
第5位 岩手高等学校自然科学部

成績一覧 条件 1,生卵損傷無し(ヒビの場合、審査員判断による)

2,高度 825 フィートを基準とする

3,滞空時間 40 秒から 45 秒(35 秒以下は失格)

上記基準は米国 TARC の 2010 年基準である。従って、今大会は日本のローカルルールとして上記3種の記録が揃い、さらに米国基準に近いチームを上位とした。

群馬県立桐生高等学校 第1チーム

1,生卵 損傷なし

2,高度記録 541 フィート

3,滞空時間 15.455 秒

群馬県立桐生高等学校 第2チーム

1,生卵 損傷あり

(一部にヒビがあり、ただし回収の際の倒木衝撃が原因と判断するが、損傷の無い第1チームを上位とした)

2,高度記録 690 フィート

3,滞空時間 28.515 秒(放出後にストリーマーとパラシュートが絡み滞空した)

佐賀県立武雄高等学校

1,生卵 損傷なし

2,高度 839 フィート

3,滞空時間 記録なし

(ロケット分離失敗によりストリーマー放出せず)

立命館慶祥高等学校

1,生卵 損傷なし

2,高度 638 フィート

3,滞空時間 記録なし

(白色ストリーマーが雲に溶け込み、2名の測定者から目視できず)

岩手高等学校自然科学部

1,生卵 ロスト(落下による紛失)

2,高度 記録なし(高度計落下水没、のちに発見回収しかし動作不良のため記録できず)

3,滞空時間 28.635 秒

追記 1,競技者は、測定者に対して視認しやすいよう形状、色彩を製作しなくてはならず、測定不能と判断された場合、競技者の責任となり測定者に責任は及ばない。

2, 米国 TARC2010 規則により、ペイロードのストリーマー滞空時間 35 秒以下は、危険な打ち上げと判断され DQ(失格)となっています。このため今大会は日本でのローカルルールによる順位を発表いたしましたが、米国規則に合致させますと全チーム DQ 失格となります。

大会終了後の協議の結果、米国 NAR との日本代表チーム参加条件は、TARC2010 の基準を満たすことが条件のため、今大会では「該当チーム無し」となりました。